第5王朝後半期における葬祭殿への供物供給

——アブシール文書の検討から——

The Supplying System of Offering
to the Funerary Temple of Neferirkare-K3k3i
in the Late Fifth Dynasty畑 守 泰 子^{*}
HATAMORI Yasuko

はじめに

古王国時代の諸王が自らの死後も葬祭儀式を継続させるために、ピラミッドや葬祭殿⁽¹⁾の建設の他、葬祭用の領地を設立するなど生前から様々な手段を講じていたことはよく知られている。しかし、葬祭殿などの葬祭施設がどのように管理・運営され、またどのような経済的基盤を有していたか、という点は必ずしも明らかではない。

こうした葬祭施設の経営に関して最も重要な史料となるのが、アブシールのネフェルイルカラー・カカイ王（第5王朝第3代の王）葬祭殿址で発見された一群のパピルス文書、いわゆるアブシール文書である。⁽²⁾この文書群は、公刊されたパピルス文書としては現在のところ最古のものであり、葬祭殿の収入・支出、職員の勤務状況など、古王国時代の葬祭殿の日常活動を記録した殆ど唯一の史料として、非常に重要な意味を持っている。しかし、大半が一見無味乾燥な表形式の経済文書であるというその地味な性格の故か、全文書が刊行されて既に20年以上経ているにもかかわらず、その研究は活発とは言えない。文書刊行数年後に、屋形禎亮氏によって勤務表と呼ばれる文書を中心とする綿密な分析⁽³⁾が出された後は、アブシール文書の研究、とりわけ葬祭殿経営に関する研究は、文書刊行者でもあつたボズネー＝クリエジェ（P. Posener-Kriéger）⁽⁴⁾殆ど一人の手に委ねられて⁽⁵⁾いる観がある。

このボズネー＝クリエジェの研究によれば、葬祭殿の経営は従来考えられていたものとは非常に異なつた、はるかに複雑な仕組みを持つものであったことになる。即ち、葬祭殿での祭儀に用いられる供物と所属員の生活に必要な食料その他の品々は、葬祭殿付属の領地から直接供給されるのではなく、様々な施設・機関から複雑な経路を辿って供

* 本会会員

Member of the Society for Near Eastern Studies in Japan

給されたというのである。そしてこうした供物供給の仲介役として重要な役割を担っていたのが太陽神殿と王都ないし王宮であり、個々の葬祭殿は中央政府の統括する物資供給システムに組み込まれていたとされる。この見解は、葬祭殿の経営形態のみならず、古王国国家全体の経済構造に関する従来の見解そのものに大きな変更を迫るものと言える。

本稿は、古王国の葬祭殿経営の解明のために、ネフェルイルカラー王の葬祭殿への食料供給がどのような経路でなされたかという点について、アブシール文書から明らかにすることを目的としている。

I. アブシール文書の概要⁽⁸⁾

アブシール文書の大半はネフェルイルカラー王の死後50年ほど経た第5王朝後半イセシ王治下、及びその次のウナス王時代のも⁽⁹⁾と推定されるが、これ以降の時代の文書もわずかながら含まれており、最も新しいパピルスは第6王朝末のベピ2世治下以降のものである。従って、この葬祭殿がネフェルイルカラー王の死後すぐに活動を開始したとすれば、その後少なくとも200年程はその活動を維持し続けたことになる。

文書は内容によって、葬祭殿所属員（職員）の勤務分担表である「勤務表」、葬祭殿の収入や職員等への支給記録である「会計文書」、葬祭殿の所蔵品（祭祀用具など）の点検リストである「備品目録」、手紙などその他の文書類、の4種に分類することができる。中でもアブシール文書の中心をなすのが、小断片も含め200枚以上に及ぶ会計文書である。これら会計文書のうち、内容がおおよそ把握できる約1/3ほどは、次の3種の文書から構成されている。

1 収入記録（収入表）

様々な機関・個人からの物資の納入記録で、会計文書でもこれに属するものが一番数が多い。大半は、外部の施設・機関からの納入であり、個人からの納入は特殊な品目に限られ、史料の数も少ない。⁽¹¹⁾収入記録は形式の上から、⁽¹²⁾(1)1カ月分の納入を表にまとめたもの、⁽¹³⁾(2)数日分の納入表、⁽¹⁴⁾(3)その他の収入記録、に分けられる。(1)はきちんと縦横に野線が引かれ表の形式を最もよく整えており、また(2)も不規則ながらある程度表の形を採ったものが多い。これに対し、(3)は野線がなく、断片的で内容の理解が困難なものが多い。これは納入時の覚え書きや表作成のための下書きと言われるものである。⁽¹⁵⁾納入される品目としては、パン・菓子類とビール等の飲料、肉類、穀物、織物、容器その他備品類がある。

2 支出記録（支給表）

会計文書のうち2番目に多いのが支出の記録である。支出の中心は、個人への食料等

の分与（支給）であり、これには(1)葬祭殿の職員への支給と(2)それ以外の人物への支給（葬祭殿に捧げられた供物の一部の払い下げを受けた高官など）⁽¹⁶⁾の二通りのものが認められるが、(1)が殆どを占める。いずれも、品目毎に、支給を受ける者の称号と名前、支給量が記録される。収入表よりも保存状態が悪く、1ヵ月単位⁽¹⁷⁾の支給表が数枚ある他は、表の断片やメモのようなものが多い⁽¹⁸⁾。支給品目は収入表とほぼ同じであり、1ヵ月分の支給表ではパン・飲料、その他のものではパン・飲料の他、穀物、織物の支給を扱ったものが残っている。但し、パンや飲料の種類は収入記録に登場するものよりも少ない。

3 収支決算書

第3の会計文書は収入と支出を一枚のパピルス上に記録した収支決算書とも呼ぶべきものである。納入機関名と品目名、それぞれの収入（予定量、納入量、不足量）と支出、及び支出対象などが記されるが、断片的なものが多い上に全体数も少ない。殆ど表の形はとっておらず、形式による分類は困難である。穀物及びパン・飲料・織物に関する収支決算書が知られて⁽¹⁹⁾いる。

これらの会計文書から、食料を中心とする供物が主に外部の施設や機関から葬祭殿に供給され、そのうちの一定部分が葬祭殿職員や高官などに再分配されるという物資の流れが窺える。以下本稿では、葬祭殿への物資の供給経路を、施設・機関からの納入に限定して検討するが、主たる史料として、供物納入機関に関して最も多くの情報を提供してくれる収入表及び収支決算書の収入に関する部分を用いる。

II. 収入表の形式と内容

収入表には、次の情報が盛り込まれている。

- ①年月日
- ②供給機関
- ③供給品目
- ④納入予定量、実際の納入量、差し引き不足量
- ⑤輸送担当者または責任者の称号と名
- ⑥特記事項

このうち、表の左端や下端に記される⑤の輸送担当者の分担記録は元来勤務表で扱われるべきものであり、⑥の特記事項などを記した特記事項と同様に省略される場合が多い。従って、収入の記録としては、①から④の項目が最も重要であったと考えられる。収支決算書の収入部分に関しても同様のことが言える。

①の年月日については、1ヵ月単位の収入表では日数分（30日分）の記入欄が縦軸に設けられ、また数日分の収入表では上端に日付が付されているが、共に表の右端に記さ

れていたと見られる年と月は殆どの場合欠損している。

②は葬祭殿への物資の納入元に関する記録であるが、葬祭殿への供物の納入機関が言及される際には、単に納入機関名が記されるだけではなく、ini+m+X「X（納入機関名）からもたらされる／もたらされた」の形で、納入元であることが明確に表現される場合が多い。文書によって ini は不定詞形や分詞形など幾つかの形で現れるが、これらが時代や納入機関、品目などによって使い分けられた形跡は認められない。⁽²²⁾ 多くの場合、納入機関名は納入品目名の上に記されるが、納入品目の右側の欄に書かれた例もある。

③の納入される品目は、主に毎日の儀式で王の像に捧げられるパン・菓子類、飲料などの供物が中心となるが、その他に穀物、織物や獣脂、容器類など儀式用の品なども見られる。収入表の場合、数種のパンや飲料、肉などの食料の納入が一つの表にまとめて記録される例が多いが、肉類のみが別の表で扱われる場合もある。穀物や織物その他食料品以外の納入はそれぞれ単独の表に記録されたようである。収支決算表では、1つのパピルスに数種の決算が記される場合もあるが、その場合は品目毎にまとめて記録されている。

④に関しては、1カ月単位の収入表の一番整った形式では、3つに分けられた当該日の記入欄に予定量・納入量・不足量を書き入れるようになっているが、多くの場合省略して予定量と納入量のみが記録されている。その際、予定量・不足量は通常赤インクで、⁽²³⁾ 納入量は黒インクで書かれる。収支決算書も同様に、品目毎に予定量・納入量・不足量、ないしは予定量と納入量が記録されている。一方、数日分の収入記録では、実際の納入量のみが記される。

III. 納入機関と納入経路

葬祭殿への供物の供給機関として最も頻繁に文書に登場するのが、ネフェルイルカラー王の建立した太陽神殿セトイブラー ⁽²⁴⁾St-ib-R^o と「王都」⁽²⁵⁾Hnw である。ポズネー＝クリエジェは、この両者が、消費者である葬祭殿と様々な生産機関とを仲介する役割を果たしていたと見ている。⁽²⁶⁾ 実際、この他に王宮^h、「カカイ（ネフェルイルカラー王）のラアシュ」⁽²⁷⁾r3-š ⁽²⁸⁾K3k3i と呼ばれる機関、他の王の葬祭機関・領地⁽²⁹⁾（⁽³⁰⁾r3-š ⁽³⁰⁾Hwfw, ⁽³¹⁾īw・šdfw, ⁽³¹⁾Dd-Snfrw, ⁽³¹⁾hwt ⁽³¹⁾Hr-st-ib-t3wy）や「王の家」⁽³¹⁾(pr-nswt), 王族の葬祭機関（「王母ケントカウエスの家」⁽³¹⁾pr mwt nswt ⁽³¹⁾Hnt-k3w・s, 「王子イリエンラーの家」⁽³¹⁾pr s3 nswt ⁽³¹⁾īry-n-r^e）など非常に様々な施設・機関がこの葬祭殿に物資を供給している（表①参照）が、その供給経路に太陽神殿ないし王都が何らかの形で関与している場合が多いのである。そこで、この太陽神殿と王都を軸に供物供給の流れを整理しておきたい。

太陽神殿と王都からの供物納入に関連した文書は数多いが、中でも最も多くの情報を

表① 供物納入機関

機 関 名	文 書 番 号
太陽神殿 St-ib-r ^e	33-35A; 36A; 41A; 42; 43A; 46A3; 47A; 48A; 49D; 50-52A; 94A; 5; 60A; 63C
王 都	33-35A; 35B; 42; 43A; 50, 1a; 74B; 5
王 宮	33-35A; 5
r3-š K3k3i	33-35A; 36A; 42; 43A; 46A1
İw-šdfw	33-35A; 39A
Dd-Snfrw	33-35A; 35B; 39A
r3-š Hwfw	43A
ḥwt Ḥr-st-ib-t3wy	50, 1a
pr mwt nswt Ḥnt-k3w·s	46A
pr s3 nswt İry-n-r ^e	46A
pr-nswt	50, 1a

文書番号は *Abu Sir Papyri* の図版番号によった。

与えてくれるのが、現在ルーブル美術館とカイロ博物館に分散所蔵されているパピルス（33-35A）である。イセシ王の治世後半のものと推定されるこのパピルスは、最も保存状態が良い収入表で、ここから太陽神殿から葬祭殿へのある月の供物納入の全体像がおおよそ把握できる。

このパピルスには、太陽神殿からの1カ月の収入記録が、罫線を共通とする3つの表に分けて収められている。このうち、共通の表題「太陽神殿から B3-K3k3i⁽³²⁾へ運ばれる供物」ḥtp-ntr (s)ḥpp r B3-K3k3i m St-ib-r^e が付された第1・第2表には、パンや菓子、飲料などの供物の納入が、第1表に毎日の納入、第2表に特定日の納入と分けて記録されている。また第3表は「太陽神殿からもたらされる肉」iwf innw m St-ib-r^eと題された、肉類の毎日の納入記録である。いずれの表も表題から見て太陽神殿からの納入であることは間違いないが、第3表の肉類以外の供物は元来他の機関から太陽神殿にもたらされたものであることが示されている。即ち、第1表では表題の下に行に供物の納入元と見られる機関名が記され、その下にそれぞれの機関から納入された1～5品目の供物名が挙げられているのである。この第1表において供物の納入元として登場するものは、r3-š⁽³³⁾ [……], r3-š K3k3i, 王都, 王宮⁽³⁴⁾の4機関であり、これらから太陽神殿を經由して葬祭殿へ供物が運ばれたと理解される。この他、「太陽神殿の（中の）ラーの祭壇」ḥ3wt m St-ib-r^eも納入機関として登場するが、赤インクで他と区別して記されていることから見て、他の機関と異なる意味、おそらく太陽神殿内部の供物供給施設を示すものと考えられる。

一方、第2表は1カ月のうち数日分のみの収入記録であり、「王都へもたらされる食

料の供給によって」 tp n wh't innt r Hnw と記された下に 6 種の供物名が挙げられ、その右の欄に王都に供物を納入した機関の名が記入されている。それによれば 3 日、7 日、9 日、16 日に r3-š K3k3i、5 日、28 日に Íw-šdfw、11 日に Dd-Snfrw が、それぞれ王都に供物を納入していることになる。同じ機関からは毎回同じ供物が同じ数だけ納入されているが、納入数量はいずれも少ない。この第 2 表の表題は第 1 表と共通であることから、ここに記載された食料はそれぞれの機関から王都、さらに太陽神殿を経由して葬祭殿へ納入されたものと考えることができる。ただ、「(ラーの?) 祭壇からもたされたもの」 in hr h3wt と記された 23 日と太陽神殿の名が記された 26 日は、納入品目や記入の仕方が他と全く異なっている。この 2 日間の収入に限っては、第 1 表のラーの祭壇の場合同様、おそらく太陽神殿から葬祭殿への臨時的納入を示すために書き加えられたものと推定される。

このパピルス及び他の収入表から、以下のような 6 つの経路、即ち太陽神殿を経由した供物納入に 3 通り (A～C)、また太陽神殿を経由しない場合にも 3 通り (D～F) の経路が認められる (表②参照)。

- A 太陽神殿から葬祭殿に納入。供給元は記録されない。
- B 供給元から太陽神殿を経由して葬祭殿に納入。
- C 供給元から王都と太陽神殿を経由して納入。
- D 王都から葬祭殿に納入。
- E 供給元から王都を経由して葬祭殿に納入。
- F 太陽神殿・王都を通さず直接葬祭殿に納入。

収入表 33-35A の第 1 表は上記 B、第 2 表は C、第 3 表の肉類の納入は A にそれぞれ該当する。なお、E では、納入元は pr-nswt と r3-š K3k3i の他、ネフェルイルカラー王以外の王たち (クフとニウセルラー) の葬祭関連施設になっている。また F の場合では、r3-š K3k3i と pr mwt nswt Hnt-k3w・s, pr s3 nswt Íry-n-r° が納入元として登場する。

以上のように、この葬祭殿の供物供給は殆どの場合、太陽神殿が王都を経由して行なわれているとすることができる。とりわけ太陽神殿からは毎日様々な供物が納入されており、この神殿が葬祭殿への物資の窓口のような役割を果たしていたことが判る。そもそも太陽神殿とは、太陽神ラーの祭儀のための神殿と考えられているが、この St-ib-r° をはじめとして、第 5 王朝初代のウセルカフ以降メンカウホルまでの歴代の王たちが代替り毎に建立した太陽神殿の役割や建立の意味については、ラー信仰の興隆との密接な関わりが知られる程度で、今だに明確ではない。ただ、遺構の現存するウセルカフとニウセルラー 2 王の太陽神殿が、いずれもそれぞれの王のピラミッドのすぐ近くに位置す

表② 供物の納入経路と納入品目

納入経路	納入品目					納入日	文書番号
	パン・菓子	飲料	穀物	肉類	その他		
A. 太陽神殿→葬祭殿	p3t			hps, swt, zhn, spht		毎日	33-35A
	ht3, pzn*	hnkt		iw ^c , mzt, h ^c w, spht, zhn		毎日	36A
	ht3, ht3t, pzn, h3dw			3pd		24日	42A
	pzn, h3dw			3pd		21日	43A
	ht3, pzn	hnkt					46A
B. X→太陽神殿→葬祭殿 X ^(u) = r3-s [...]		hdt, hdr					60A
	pzn	hnkt				毎日	33-35A
	ht3t*, h3dw*, r3-s K3k3i						
	王都 ht3, ht3t, pzn*	hnkt			ht-nfrt*		
	王宮 ht3, id3, pzn, p3d	hnkt					

C. X→王都→太陽神殿→葬祭殿 X=r3-š K3k3i İw-šdfw Dd-Snfrw	bst, pzn	ḥdt				3・7・9・ 16日	33-35A
	ḥt3, bst, pzn	ḥdt, sḥpt	ddw			5・28日	
	ḥt3, bst, pzn	ḥdt	ddw			11日	
	ḥt3, ḥt3t, pzn, s ^c wt*	ds		inst		毎日	35B
D. 王都→葬祭殿 E. X→王都→葬祭殿 X=pr-nswt ḥwt Hr-st-ib-t3wy r3-š 3K3k3i r3-š Ḥwfw	ḥt3, ḥt3t	ds, zft		3pd		21, 22, 24日	42A ; 43A
			zt, pḥ3			24日	50, 1a
	bst, pzn	ds					43A
	pzn	ḥdt, ds					
F. X→葬祭殿 X=pr mwt nswt Ḥnt-k3w-s r3-š K3k3i	ḥt3, pzn	ḥnkt		sḥt		7 8 11, 12日	46A
	ḥt3, ḥt3t, ḥ3dw	ds				毎日	36A

(1) Xは食料の納入元となる施設・機関を表す。
* 印は予定のみで実際には納入されなかった品目を示す。

ることなどから、太陽神殿と王の葬祭が密接に結びついていたであろうことはこれまで⁽³⁵⁾も指摘されてきた。アブシール文書の収入記録から、太陽神殿が経済的な側面で王の葬祭に深く関わっていたことがより明確になったわけである。なお、アブシール文書の大半が書かれたイセシ王の時代には、新たな太陽神殿は建立されなくなっていたが、既存の太陽神殿の活動は活発に続いていたことが判る。

また王都については、これが実際にどこにあったのか、太陽神殿のように特定の施設を指すものなのか、或いは漠然と場所を意味するだけなのか、という点など疑問は残るものの、確かに葬祭殿への供物の供給に大きな役割を果たしていたことは認められる。特に、スネフルやクフ、ニウセルラーといった他の王の葬祭関連施設からの供物が王都を経由してもたらされたという事実は、以前の王たちの葬祭関連施設が経済的に中央政府の統制をある程度受けていたことを示すものと言えよう。

一方、ポズネー＝クリエジェが、太陽神殿と王都と並んで、葬祭殿への供物供給に大きな役割を果たしたものとして重視しているのが、r3-š K3k3i である。r3-š K3k3i は前記の経路のうち、B・C・E・Fの経路で葬祭殿に供物を供給している。一般に r3-š⁽³⁷⁾は領地の一種と考えられているが、ポズネー＝クリエジェは、この r3-š K3k3i を単なる葬祭領地ではなく、ネフェルイルカラー王の幾つもの葬祭領地の生産物を集めるための機関であると見做し、太陽神殿や王都と同様、生産施設と神殿との仲介者としての役割を果たしていたと推定している。確かに、r3-š K3k3i がアブシール文書にしか登場せず、逆に他の史料から知られるネフェルイルカラー王の領地がアブシール文書にはひとつも登場しないという事実は奇妙ではある。しかし、納入経路から見る限り、r3-š K3k3i は太陽神殿などとは異なり納入経路の中間に登場することはなく、文書での登場回数は多いとは言え、他の王や王族の葬祭機関とさほど違った性格の機関とは思えない。また納入機関として文書に現れるもうひとつの r3-š、クフ王の r3-š (r3-š Hwfw) についても、他の葬祭領地との違いは特に見いだせない。従って現時点では、r3-š K3k3i は単にネフェルイルカラー王の創設した領地ないし施設の一つと考える方が無難であろう。

IV. 納入品目と納入量

葬祭殿に供給された品目のうち、供物として納入されるパンや飲料、及び肉類、穀物などの食料には多くの種類があるが、納入元の機関ないし納入経路の違いによって、その種類には若干の差異が認められる。以下、これらの納入食料についてその種類と納入⁽⁴⁰⁾数量を見ておきたい(表②参照)。

1 パン・菓子類⁽⁴¹⁾

アブシール文書の中で最も頻繁に見られるのがパン・菓子類である。このうち *ht3*, *pzn*, *bst* と呼ばれる代表的な供物用パンは、どの機関からの納入品目にも大体含まれている。うち、*ht3* の納入量は、太陽神殿から 1 日に 40～78 個納入されている例 (36A) を除けば、通常 1～4 個となっている (33-35A; 35B; 42A; 46A)。一方、*pzn* はどの機関からも 1 日当たり 2～4 個、*bst* は 1 個程度納入される (33-34A; 35B; 42A; 43A; 46A)。これに対して *id3* や *p3d* と呼ばれる供物用菓子類は王宮からのみ、1 日 7 ないし 8 個納入の予定である (33-35A)。この他、太陽神殿の (中の) ラーの祭壇から菓子 *p3t* が 1 日 14 山⁽⁴²⁾ (33-35A)、太陽神殿・王都・*r3-š K3k3i* から *ht3* パンが 1 日 2～9 個 (33-35A; 35B; 42A)、太陽神殿と *r3-š K3k3i* から *h3dw* パンが 1 日 1 個 (33-35A; 36A; 42A) 納入されている。また蜂蜜や牛脂が加えられたパン *š'wt* は、王都から 1 日 2 個ずつ納入の予定があるが、実際には納入されていない (35B)。

2 飲料⁽⁴³⁾

アブシール文書全体では 7 種類の飲料が登場するが、納入機関が明らかなものは 5 種類である。このうち、最も多くの機関から納入されているのが *hnkt* ビールで、納入量は太陽神殿から 1 日に 10 壺 (1 月換算で 300 壺) (36A)、或いは 1 日 4 壺直接納入されており (43A)、王母ケントカウエスの所領から 1 日 6 壺が納入されている。また王宮から太陽神殿を経由して 1 日 1 壺、*r3-š* [……] から 1 日 7 + *x* 壺が納入される予定になっているが、殆ど未納のままである。内容不明の飲料 *ds* は、王都から 1 日 2 壺、*r3-š K3k3i* から 1 日 1 から 3 壺直接もたらされたことになっている (35B; 36A; 42A; 43A)。*hnkt* と並ぶ代表的な供物のビール *hdt* については、*r3-š K3k3i*, *İw-šdfw*, *Dd-Snfrw* から王都、太陽神殿を経由してそれぞれ 3 壺 (1 カ月に 4 日)、1 壺 (2 日)、1 壺 (1 日) ずつ (33-35A)、また納入量は不明だが太陽神殿からも直接納入されている (60A)。他の飲料 *hprt*, *zft*, *shpt* に関しては詳細不明であるが、*hprt* は太陽神殿から、*zft* は王都から (42; 43A)、*shpt* は *İw-šdfw* から王都、太陽神殿を経由して運ばれている (33-35A)。

3 穀物⁽⁴⁴⁾

アブシール文書の中では、穀物の納入記録は非常に少ない。穀物の粉を表すとされる *ddw* が *İw-šdfw* と *Dd-Snfrw* から王都、太陽神殿を経由して 1 壺納入されている (33-35A) 他は、収支決算書において小麦の一種 *zt*、穀物或いは果物と言われる *ph3* が、*pr-nswt* とニウセルラー王の葬祭領地から王都を経由して納入された (50, 1a) ことが記録されているだけである。予定量は各 30 *hk3t* ずつ (おそらく 1 カ月分) となっているが、*zt* が完納されているのに対し、*ph3* は *pr-nswt* から 28.25 *hk3t*、ニウセルラー王葬祭殿領地から 28.5 *hk3t* の納入となっている。但し、このうち *zt* は全て葬祭

殿からさらに太陽神殿に運ばれたことが支出記録に記されている。zt と ph3 は家畜の飼料として用いられた記録がある(41)ため、太陽神殿の屠殺用の家畜の飼料にした可能性もある。

4 肉類⁽⁴⁵⁾

鳥(3pd)を除く肉類(hpš, swt, zhn, sph̄t, iw°, h°w, mist)の納入は殆ど太陽神殿から毎日もたらされている。いずれも元の供給機関に関する記録がないことから、肉類は太陽神殿で屠殺されたものが供物として葬祭殿へ運ばれたと考えられる。納入数量は、牛の前脚(hpš)の他、3種の肉(swt, zhn, sph̄t)が毎日2個ずつ(35A)、6種の肉(iw°, h°w, swt, zhn, sph̄t, mist)が毎日1～3個ずつ(36A)の納入となっている。これは1カ月に換算すれば牛30頭分以上にのぼる数である。また、鳥は太陽神殿から1日10羽(42A; 43A)、王都から1日当たり12羽(42A; 43A)の納入記録がある。

5 その他

この他、「良き物」ht-nfrt⁽⁴⁶⁾と呼ばれる供物が王都から太陽神殿を経由して10日、11日、20日に各10ずつ納入される予定だが、未納のままとなっている(33-35A)。このht-nfrtは決定詞から見てパンと飲料などの食料のセットと推定されるが、納入の記録はこれ1例のみである。これに対し、テティ王治下の収支決算書(94-96A)において、120～2100ものht-nfrtの支出の予定が記録されている。

葬祭殿への食料納入には次のような特徴がある。①種類・量ともに太陽神殿から直接納入ないし太陽神殿を経由して納入されるものが最も多い。②パンや飲料は毎日納入される予定のものと月の特定日のみに納入される予定のものがあり、いずれも文書の記述を文字通り信ずるならば、殆どの場合穀物などの原料の形ではなく、加工された状態での納入となっている。③肉類は太陽神殿から毎日納入される予定になっていた。④肉類や一部のパンなどを除き、納入数量はさほど多くない。ht-nfrtなどに見られるように支出記録と比べ納入数が少ないものもあり、また予定量が完納されない場合も少なくない。

おわりに

アブシール文書の収入記録の検討から、太陽神殿、王都、王宮、及び他の王や王族の葬祭関連施設などの諸機関が、様々な種類の食料を供物としてネフェルイルカラー王の葬祭殿に供給していたことが明らかとなった。

これらの諸機関のうち、最も重要な役割を果たしていたのが太陽神殿と王都であった。諸機関からの食料供給経路は6通りに分類できるが、うち5通りはこの両者のいずれかを經由しており、両者は食料の供給源としてばかりでなく、他の諸機関からの供給の中

継機関としてもたびたび文書に登場するからである。とりわけ太陽神殿を経由してもたらされる食料は種類、量共に多く、太陽神殿はあたかも葬祭殿を経済的に支える集配施設ないし食糧庫であるかのような印象を受ける。これに対し、王都はより幅広い役割、即ち過去の王の葬祭機関の生産物を、たとえ部分的にせよ、集積し分配する役割を果たしていたと考えられるのである。ただ、r3-š K3k3i や王族の葬祭施設などから直接供給される食料もあるため、ポズネー＝クリエジュ⁽⁴⁷⁾の言うように、王都＝中央政府が葬祭関連の経済組織全体を完全にコントロールしていたとまで断定することはできないであろう。

供給された食料の多くはパンやビールなど加工品であり、その原料としての穀物納入記録は非常に限られている。このような食料の形態は納入経路の複雑さから見て、やや意外との印象を受ける。これはこの葬祭殿が内部にパンやビールを作る施設を持たなかったことを意味するのかもしれない。しかし葬祭殿の近隣にあったと見られる太陽神殿はともかく、王都や王宮から毎日、さらに遠くの機関（例えば Dd-Snfrw や İw-šdfw⁽⁴⁸⁾ など）から月に数回、小量のパンやビールがその都度輸送されたとは信じ難い。また、収入記録に見られる食料納入量は概して小量であり、時に支出の方がはるかに多い品目も見られる。支給記録から見て、職員がパンや穀物などを葬祭殿から支給されていたことは確実であるが、収入表に記録された納入量では、少なくとも数十名にのぼる職員とその家族を養えるとはとうてい思えない。このような収支の不均衡や供物の納入形態に関わる問題については、今後支出記録や収支決算記録の分析を通じて詳細に検討するつもりである。

注

- (1) 古王国時代の王の葬祭殿はピラミッドに隣接して建てられた祭儀施設であり、ここで故王に対する主要な祭儀が執り行なわれた。こうした葬祭殿の原型は既に第1王朝末から登場するが、典型的な形に発展したのは第5王朝以降といわれる。R. Stadelmann, *Die ägyptischen Pyramiden. Vom Ziegelbau zum Weltwunder*, Darmstadt, 1985, S. 205–216. (以下 Stadelmann, *Pyramiden* と略記。)
- (2) 第4王朝のスネフル王以降、収入の少なくとも一部を葬祭用に充てるための領地が設立されたことが、諸王の葬祭殿内のリストから知られている。H. K. Jacquet-Gordon, *Les Noms des domaines funéraires sous l'Ancien Empire égyptien*, Le Caire, 1962, pp. 3–25.
- (3) P. Posener-Kriéger, J. L. de Cenival, *Hieratic Papyri in the British Museum 5th Series: Abu Sir Papyri*, London, 1968. (以下 *Abu Sir Papyri* と略記。なお本文中の()内の数字はこの本の図版番号を表す。)

- (4) 上エジプトのゲベレインで1935年に発見された数枚のパピルス(ゲベレイン・パピルス)は、Posener-Kriégerによれば、神殿の会計および労働者のリストなどアブシール文書と類似した内容を持ち、しかもアブシール文書よりも80~100年時代が遡るとされる。しかし、このパピルスは今だに公刊されておらず、詳しい内容は不明である。P. Posener-Kriéger, “Les Papyrus d’Abusir et economie des temples funéraires de l’Ancien Empire”, in E. Lipinski (ed.), *State and Temple Economy in the Ancient Near East I*, Leuven, 1979, p. 133. (以下 Posener-Kriéger, Economie と略記。)ゲベレインパピルスに関しては次の文献で簡単な紹介がなされている。P. Posener-Kriéger, “Les Papyrus de Gébélein, Remarques préliminaires”, *Revue d’Égyptologie* 27, 1975, pp. 211-221.
- (5) 屋形禎亮, 「アブシール文書について」『オリエント』第16巻第2号, 1973年, 57-78頁; 「アブシール文書研究(一)」『東京教育大学文学部紀要』第96号, 1974年, 1-41頁。これらの論考では、特に勤務表と呼ばれる文書の分析と研究がなされている。これに対し、同「アブシール文書研究(二)」『東京教育大学文学部紀要』第101号, 1975年, 1-16頁, では個々の会計文書の分析が中心になっている。
- (6) 全文書に関する詳細なコメントリーとして, P. Posener-Kriéger, *Les Archives du temple funéraire de Néferirkarê-Kakaï*, 2vols, le Caire, 1976 (以下 Posener-Kriéger, *Néferirkarê* と略記), 及び文書に基づく葬祭殿経営研究として idem, Economie, pp. 133-151.
- (7) Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 611-641; idem, Economie, pp. 133-151.
- (8) アブシール文書発見の経緯や現在の所蔵先, 年代, 内容の分類などに関しては, 以下の文献に詳しい。*Abu Sir Papyri*, pp. ix-xii; Posener-Kriéger, Economie, pp. 133-135; 屋形, 前掲「アブシール文書について」, 57-64 頁; 同「アブシール文書研究(-)」, 1 頁, 36頁注(1)(2)。
- (9) 年代が明記されているのは, 「イセシ王の第16回家畜調査の年(治世31/2年)」と記された一例(*Abu Sir Papyri*, pl. 1)のみであるが, 書体などから大多数のパピルスはこのイセシ及び次王ウナス治下のものと推定される。*ibid.*, pp. xv-xvi; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 483-491.
- (10) *Abu Sir Papyri*, pl. 103A, B. ここには, 治世年は残っていないが, ペピ2世の王名を含む人名(Ppy-^anḥ と Mry-hs-nfr-Nfrk3r^e, [……] Nfrk3r^e)が見られるため, ペピ2世以降の文書であることがわかる。他に, テティ王治下の文書もある(*ibid.*, pls. 92A-96A)。
- (11) 例えば, レンガなどの建材の納入を記録した収入表: *ibid.*, pls. 62A; 63A・B.
- (12) *Ibid.*, pls. 33-35A, 35B・C, 36A, 37, 38A, 39A, 41Ab, 48B, 52B, 96D, 98A, 101E (パン・飲料等); 35A3, 48E (肉); 74C・K・D・M, 48C, 77K・L・M, 78A・B・D・E・H・K, 98C・D・E・G・H・I・K, 99M・N・O・U・V・Y, 78J, 98J, 102A・E・R・U (小断片)。

- (13) *Ibid.*, pls. 42A, 43A, 46A (パン・飲料) ; 43B (肉) ; 50-52A (その他)
- (14) *Ibid.*, pls. 60A (飲料) ; 49D (織物その他).
- (15) 屋形, 前掲「アプシール文書研究(二)」, 9-11頁。
- (16) *Abu Sir Papyri.*, pl. 65 が高官への支給を扱っている。これら高官の中には葬祭殿の供物の払下げを受ける故人も含まれるといわれる。Posener-Kriéger, *Néferirkaré*, p. 616.
- (17) *Abu Sir Papyri.*, pls. 39B, 40A, 96C, 66E (パン・飲料・肉類) ; 59B, 60D (品目不明).
- (18) *Ibid.*, pls. 94-96 (パン) ; 2A, 97C (穀物) ; 44D, 45A, 64F (肉) ; 47A2, 49B・E, 53 A2 (織物その他) ; 56A (品目不明).
- (19) *Ibid.*, pls. 54C, 96E (パン・飲料) ; 41C, 50-52A1a, 97B (穀物) ; 50-52A2b, 47A (織物その他) ; 61B (品目不明).
- (20) 勤務表には葬祭殿への供物運搬の分担に関する項目があり (*Ibid.*, pl. 5A), 物資の輸送は葬祭殿職員の重要な任務の一つであったと考えられる。
- (21) 例えば, 輸送が舟を用いて行なわれたこと (*Ibid.*, pl. 35A) などの記載がこれにあたる。
- (22) 収入表や収支決算表では ini の他に, šhp「運ぶ, 持ってくる」, šsp「受け取る」, šdi「取り出す, 引き出す」, f3i「運ぶ」といった動詞が物資の納入に関連して用いられる場合もある。šsp は主として穀物, šdi は織物その他食料以外の品, f3i は肉類やレンガなどの建材の納入にそれぞれ関連して用いられているが, いずれも使用例はごく少ない。
- (23) 収入表においては, 予定量と不足量の数字の他に, 表の上・下端や10日毎の野線, 納入機関名と供物名の間に引かれた野線, 及び後から加筆されたような特別の添え書きや他との区別が特に必要な箇所(例えば同名の人物の区別等)に赤インクが使用されている。アプシール文書においても他の文書同様, 基本的に他との区別や強調を必要とする箇所では赤インクが使用されたと考えられる。赤インクの使用に関しては, 以下を参照。*Abu Sir Papyri*, pp. xviii-xix ; W Helck, *Altägyptische Aktenkunde des 3. und 2. Jahrtausends v. Chr.*, München, 1974, S. 53-63 ; G. Posener, "Sur l'emploi de l'encre rouge dans les manuscrits égyptiens," *Journal of Egyptian Archaeology* 37, 1951, pp. 75-80.
- (24) この太陽神殿の遺構は現存しないが, ネフェルイルカラー王のピラミッドの近隣, アプシール地区にあったと見られる。以下本稿で太陽神殿と呼ぶ場合は, 特に注記しない限り, この太陽神殿を指す。
- (25) 「王都」Hnw とは国家行政の中心としての王の居住地を指し, 王の居住宮殿である「王宮」ḥ とは明確に区別されるといわれる。Helck, *op. cit.*, S. 29, n. 4 ; cf. A. Erman, H. Grapow (hg.), *Wörterbuch der ägyptischen Sprache*, Berlin-Leipzig, 1926-63 (以下 *Wb.* と略記) I, 214, 10-11 ; *Wb.* III, 370, 5-10.

- (26) Posener-Kriéger, *Economie*, p. 142.
- (27) 第4王朝期のマスタパにおいて葬祭用の領地として言及されているが、所在地は上エジプトと見られる。アブシール文書では常に Dd-Snfrw と一緒に登場するところから、スネフル王の創設した葬祭領地と推定される。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 623-624; idem, *Economie*, p. 143; K. Ziberius, *Ägyptische Siedlungen nach den Texten des Alten Reiches*, Wiesbaden, 1978, S. 34.
- (28) メイドゥムのスネフル王のピラミッド。Ibid., S. 274-277.
- (29) ニウセルラー王の葬祭殿領地の一つと見られる。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 333 d; Zibelius, *op. cit.*, S. 161.
- (30) 王領地の管理組織か。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 333; *Wb.* I, 51, 3-5.
- (31) ケントカウエスはネフェルイルカラー王の母、王子イリエンラーについては詳細不明だが、同じくケントカウエスの息子と見られている。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 309.
- (32) B3-K3k3i はネフェルイルカラー王のピラミッド名だが、葬祭殿をも含めこの名前で呼ばれていたと見られる。
- (33) [……]は欠損を示す。
- (34) 「王都、王宮から運ばれるもの」 innt m Hnw/ḥ と記されていることから両者が納入機関であることは明らかである。またこれらと同じ行に書かれた r3-š [……] と r3-š K3k3i も同様に納入機関と考えられる。
- (35) E. Winter, “Zur Deutung der Sonnenheiligtümer der 5. Dyn.,” *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Morgenlands* 54, 1957, S. 222-233.
- (36) 当時の王都の所在地に関して、ポズネー＝クリエジェはヘリオポリス～メンフィス地区とみているが (Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 620), 統治中の王の「ピラミッド都市」が王都であったとする説もある (Stadelmann, *Pyramiden*, S. 215-216)。
- (37) š を土地の一種とする見解 (*Wb.* IV, 397-398) や r3-š 自体を耕地と砂漠の境界線に広がり、ピラミッド関連施設の職員が耕作する耕地とする解釈 (R. Stadelmann, “Die Hnty-š, der Königsbezirk š n pr-ꜣ und die Namen der Grabanlagen der Frühzeit”, *Bulletin de l'Institut Français d'Archéologie Orientale* 81, 1981, pp. 163-164) など。この他 r3-š を河岸神殿とする解釈もあるが (H. Goedicke, *Königlich Dokumente aus dem Alten Reich*, Wiesbaden, 1967, S. 69-71), ネフェルイルカラー王のピラミッド複合体には河岸神殿がないという事実や、これまで見たようなアブシール文書の記述から見て、この考えは受け入れ難い。
- (38) Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 616-619; idem, *Economie*, pp. 142-143.
- (39) ネフェルイルカラー王の葬祭領地に関しては, Jacquet-Gordon, *op. cit.*, pp. 151, 153, 276, 271, 296, 299, 367, 381, 384, 401, 424 及び, K. Sethe, *Urkunden des Alten Reichs*, Leipzig 1932-33, I, 246-249 参照。

- (40) 一部を除き納入単位は特に記されていないが、パン、菓子、肉類は個、飲料は壺、穀物は *ḥk3t* が単位と考えられる。但し、いずれもその大きさや容量は不明。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 228-231.
- (41) パン・菓子類の詳細については以下を参照されたい: *Wb.* I, 152, 17; 476, 10; 495, 6-8; 501, 9-12; 594, 18-20; III, 204, 8-9; 237, 2-4; IV, 421, 3-4; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 232-239 (A1-15).
- (42) 1山 (°h) は14個を表すとされる。Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 233.
- (43) *Wb.* III, 211, 10-14; 443, 1; IV, 169, 13; 240, 5-7; V, 485, 7-8; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 239-242 (B1-7).
- (44) *Wb.* I, 542, 8-11; III, 426, 12-17; V, 502, 8-10; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 252-253, 254 (F1-2, G2).
- (45) 3pd を除き、他の肉類はいずれも牛の脚や胸肉、内臓部分などと言われている。*Wb.* I, 9, 5-8; 50, 3-5; 99, 18-20; II, 44, 11-14; III, 38, 28; 268, 4-7; 314, 18; 470, 14; IV, 60, 2-3; 105, 12-14; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, pp. 242-247 (C1-17, D1).
- (46) *Ibid*, pp. 253-254 (G1).
- (47) Posener-Kriéger, *Economie*, p. 144.
- (48) ポズネー＝クリエジェは、供給元から穀物で運ばれ、王都ないしは太陽神殿で加工されたと推定している (*ibid.*, p. 143; Posener-Kriéger, *Néferirkarê*, p. 631).
- (49) 勤務表からこの葬祭殿には十数名からなる5つの班が交替で勤務していたと推定されている。屋形、前掲「アブシール文書研究(一)」, 16-36頁。